「くすりのしおり®」の活用事例紹介

くすりのしおりコンコーダンス委員会

開発から現在まで

日本語：約 14,400 品目
英　語：約 4,000 品目

「くすりのしおり®」は患者さん・ご家族と医療関係者のコミュニケーションの促進に役立つ医薬品情報ツールとして、難しくなりがちな説明をできるだけ易しく記載し、かつA4用紙1枚程度に纏めた、医療用医薬品の説明書です。

「くすりのしおり®」の特徴

コンパクトで分かり易い
- 添付文書よりもコンパクトで分かり易い
- 薬剤情報提供文書よりも内容が詳しい

正確性・信頼性
- 薬を製造・販売している製薬企業が作成

グローバル化対応
- 英語版くすりのしおりを整備

開発当初は厚生労働省に掲載されている「個別医薬品服薬指導情報集」の500品目から作成され、平成12年に製薬企業57社の協力により、約2,400品目をインターネットを通じて医療関係者に限定し提供しました。その後、平成15年に日本医師会のORCAシステムに「くすりのしおり®」のデータベースを提供するとともに、協議会ホームページから広く一般に情報公開しました。平成19年には、医薬品医療機器総合機構ホームページの「患者向け医薬品ガイド・くすりのしおり®」から検索が可能になりました。(http://www.info.pmda.go.jp/)

現在、「くすりのしおり®」を作成している製薬企業は150社（平成26年11月末時点）にのぼり、日本語版（約14,400品目）に加え、日本に居住する外国人や日本から海外に行く日本人旅行者などに対応した英語版（約4,000品目）があります。

紙媒体と電子媒体　それぞれの使われ方

「くすりのしおり®」は医療関係者（主に薬剤師）から患者さんへ、必要に応じ薬剤情報提供文書に加えて印刷し情報提供されています。最近ではインターネットの普及とともに、デジタルデータとして電子カルテシステムやレセプト電算システム・薬歴管理システム、インターネットポータルサイト等のシステムに搭載されるようになりました。

●「くすりのしおり®」利用社一覧

電子おくすり手帳	●harmo　ソニー㈱ ●次世代クラウド健康管理サービス「ファルモ」　㈱ファルモ
インターネットポータルサイト	●カラダにe-サイト「healthクリック」処方薬検索　㈱ヘルスクリック ●ココヤクDI-pedia おくすり検索　㈱グッドサイクルシステム ●薬検索　㈱オールアバウト ●QLifeお薬検索　㈱QLife ●医師に相談できるQ&Aサイト アスクドクターズ　エムスリー㈱ ●安心処方infobox　アイ・エム・エス・ジャパン㈱
スマートフォンアプリ	●iPhoneアプリ「処方薬&市販薬検索アプリ」　㈱QLife ●Android端末向けアプリ「処方薬&市販薬 お薬検索～調べて安心のお薬情報検索アプリ～」　㈱QLife ●メディスキャン（iPhoneアプリ）　㈱ズー
レセプトコンピューターなど	●保険薬局用レセプトコンピューター「PharnesⅢ」　パナソニック ヘルスケア㈱ ●保健薬局用電子薬歴システム「PharnesII-MX」　パナソニック ヘルスケア㈱ ●診療所用医事一体型電子カルテ「Medicom-HRII」　パナソニック ヘルスケア㈱ ●源内　㈱ズー ●対話型電子薬歴管理システム「DrugstarCereb EX」　東日本メディコム㈱

（平成27年1月末時点）

≪活用事例≫

●インターネットポータルサイトでの活用例　㈱オールアバウト　AllAbout

トップ画面から「健康」⇒「薬検索」を開き、調べたい薬を入力すると「くすりのしおり®」をご覧いただけます。

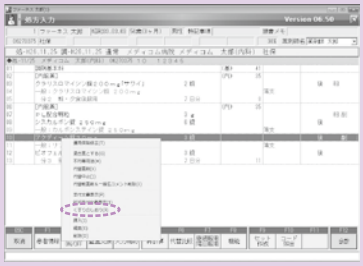
All About 薬検索 http://allabout.co.jp/r_health/healthdb/medicinedb/

●レセプトコンピューターでの活用例　パナソニック ヘルスケア㈱

処方入力画面から「くすりのしおり®」を簡単に検索でき印刷が可能。服用指導のサポートに役立ちます。

保険薬局用レセプトコンピューター「Pharnes（ファーネス）Ⅲ」

処方入力画面



薬剤名を右クリック後「くすりのしおり」を選択

確認画面ののち、くすりのしおりが画面に表示

まとめ

平成26年11月25日に施行された、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」では「第一条の六（国民の役割）』に、「国民は、医薬品等を適正に使用するとともに、これらの有効性及び安全性に関する知識と理解を深めるよう努めなければならない」と表記されました。このことにより、患者さん・ご家族にも、薬について知識と理解をより深めることが求められるようになりました。

もともと「くすりのしおり®」は医療関係者と患者さん・ご家族のコミュニケーション促進のために作られましたが、コンパクトで分かり易い表現を用いており、国民自らが薬の理解を深めるツールとしても適しています。

また、レセプトコンピューターなどの医療現場のシステムだけでなく、インターネットのポータルサイトや電子おくすり手帳にも広く使用され始め、患者さん・ご家族自らが、手軽に参照できる環境となってきています。

国民と、医療関係者とが、「くすりのしおり®」を用いながら円滑なコミュニケーションを実現させることを期待し、今後も「くすりのしおり®」を作成する製薬企業と協働しながら更なる利便性の向上を目指してまいります。

「くすりのしおり®」URL　http://www.rad-ar.or.jp/siori/index.html